

会 議 録

会議名	第9回松本地域公共交通協議会・第9回松本地域公共交通会議
日 時	令和6年12月16日（月） 14時30分から15時30分まで
場 所	松本市役所議員協議会室
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 会議事項 (1) 松本地域公共交通協議会 【報告事項】 路線バスの利用促進策の取組状況について 【報告事項】 ぐるっとまつもとバスへの地域連携ICカードシステム導入の取組状況について (2) 松本地域公共交通会議 【議案第1号】 松本・島内線の迂回について 【議案第2号】 松本市AIオンデマンドバス「のるーと松本」の本格運用について 【議案第3号】 松本市小中学校スクールバス運行にかかる車両の併用について 4 そ の 他 5 閉 会
資 料	1 次第 2 会議資料

出席者 (敬称略)	【会 長】	高 瀬	達 夫	(信州大学工学部)
	【委 員】	山 岸	康 範	(国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局)
		丸 山	正 徳	(長野県企画振興部交通政策課)
				(代理：中川 誠)
		松 島	弘 子	(松本地域振興局企画振興課)
		中 川	文 晴	(松本建設事務所維持管理課)
		椎 名	祐 二	(松本警察署交通第二課)
		伊 藤	亮 二	(松本商工会議所)
		斉 藤	敦	(アルピコ交通株式会社)
		三 澤	洋 一	(松本地区タクシー協議会)
		大 内	清 彦	(アルピコ労働組合松本電気鉄道支部)
		荻 原	健 司	(松本地区ハイタク労働組合会議)
		中 田	景 文	(松本市町会連合会)
		草 深	邦 子	(松本市民生委員・児童委員協議会)
		岡 田	大	(松本市P T A連合会)
		新 居	禎 三	(松本地域公共交通協議会山形村部会)
		北 村	直 樹	(松本地域公共交通協議会朝日村部会)
		堤	岳 志	(山形村)
		清 沢	光 寿	(朝日村)
		田 原	茂	(松本市)
			(欠席者 4 名)	
	【事務局】	松本市	交通部	公共交通課
				交通ネットワーク課
	【その他】	本郷地区みんなのバス協議会	事務局	

1 松本地域公共交通協議会

報告事項

ア 報告事項 路線バスの利用促進策の取組状況について

- 事務局：資料に基づき説明

<質問、意見がなく了承>

イ 報告事項 ぐるっとまつもとバスへの地域連携ＩＣカードシステム導入の取組状況について

- 事務局：資料に基づき説明
- 委員：松本・島内線の浮世絵博物館など観光客の利用が多くみられるが、地域連携バスにＩＣカードの導入はしないのか。
- 事務局：車両がコンピューターとなるため、ＩＣカードを使用する機器を設置することができない。クレジットタッチ等で対応をしていきたい。

<質問、意見がなく了承>

2 松本地域公共交通会議

(1) 協議事項

ア 議案第１号 松本・島内線の迂回について

- 事務局：資料に基づき説明
- 委員：資料の地図が分かりづらいので詳細を聞きたい。
- 事務局：通常のコースは緑色で示しており、工事の関係で迂回をするルートは紫色で示しているとおりで、建物の周りを周回するような形になっている。

<議案第１号について了承>

イ 議案第２号 松本市ＡＩオンデマンドバス「のるーと松本」の本格運行について

- 事務局：資料に基づき説明
- 委員：細かく運賃設定をしているが、その地区を走る地域連携バスへの影響はどのように考えているのか。
- 事務局：運行時間が９時～１７時となっており、学生の利用よりも高齢者や一般の大人などの利用が多い。高校生などは夏休みに塾に通う学生に考慮し、一律３００円だったところを中高生は２００円にすることを検討している。年代別の利用状況をみても利用する年齢層が高齢者が多いことから、大きな影響はないと考える。
- 委員：地域連携バスの減便は全く考えていないのか。
- 事務局：のるーとの導入に関わらず、利用が少ない地域連携バスの路線について見直しを行ってきたので、利用状況によっては見直すことは考えられる。
- 委員：地域公共交通計画が策定されているが、変更等は生じるの

か。

- 事務局： 地域公共交通計画の中にラストワンマイルに関する記述があり、その中でA I オンデマンドバスの導入について触れられているので、特に計画の変更等は予定していない。
- 委 員： 2つの地域で1万人の利用者がいる中でも運行経費が膨大であり、市全体のバランスからみても疑問に感じる。地域で負担することは検討しないのか。
- 事務局： ご指摘のとおり、2つの地域で多額の費用が掛っている。地域全体で何かを負担する議論をしていないが、多くの費用が掛っているので、地域中心に利用促進をお願いしている。原則大人300円で利用してもらい、収入を増やしていく形で多額の費用を運賃で賄っていければと思う。
- 委 員： 利用が増えると予約の不成立に繋がる懸念があるが、実証運行中の予約の不成立の割合はどのくらいになるのか。
- 事務局： キャンセル率は13.46%となっている。これは予約を入れてから何かしらの都合でキャンセルが発生した状況になる。数字として把握できない部分ではあるが、予約がたくさん入ってしまい、待ち時間が1時間になるから予約をしないような状況が発生する場合もある。若干、地域からそのような声を聞いているが、全体に影響するまでに至っていないかと思われる。
- 委 員： 本格運行した際にキャンセル率がどうなるのか、利用したいにも関わらず利用できない状況が発生した場合どうするのか課題となってくる。データの収集や住民の声を聞くことは継続していく必要がある。
- 委 員： 乗車人数は1人が多いのか。乗車定員が10人の中型ミニバンで運行しているが、この大きさが必要なのか検討していく余地はある。
- 事務局： 現状の予約の乗合率は、68.81%である。予約件数は50.57%と約20%弱の差があり、この差が複数名で予約されている差になっているものと考えられる。ほとんどが1人で乗車している状況である。1人で乗車し、次のポイントで2人目、3人目と乗車してくることが多いため、車両を小さくしてしまうと、乗客を拾えなくなり非効率となってしまう。現在、乗車定員が8人の車両を使用しており、8人を超えるような状況になっていないため、現行の車両がちょうどいいと感じている。
- 委 員： 稼働率はどのくらいになるのか。
- 事務局： 稼働率は1年間で68%となり、残りの32パーセントが実

際に乗客が乗車していない運行になっている。

- 委 員： 運行経費が約5, 0 0 0万というデータがあるが、この間の運行収入はいくらになるのか。事業収入でいうとどのくらいのマイナスになるのか。
- 事務局： 令和6年11月現在のもので、4 0 0万円になる。
- 委 員： 経費が5, 0 0 0万に対して4 0 0万の収入になるため、経費の1割だけ戻ってくる計算になる。事業としては厳しいが、必要性を考えるとしばらくは現状の形で運行し、5年後、10年後に見直していく必要がある。

<議案第2号について了承>

ウ 議案第3号 松本市小中学校スクールバス運行にかかる車両の併用について

- アルピコ通： 資料に基づき説明

<議案第3号について了承>

以 上